

うさぎとかめの通信

上越市立高田幼稚園

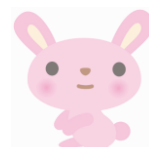
(園長室だより) 108周年
令和6年12月24日 第200

HPのQRコード→



「思い→体験→表現」は、幼児、児童、生徒に一貫する遊び学びの基本！

充実した2学期でした



寒波の到来とともに、寒い日が続いていますが、子供たちは毎日元気に笑顔でいろいろな遊びを楽しんでいます。2学期も充実した生活や遊びが展開されていました。

9月、昨年度は天候に見舞われず中止となった金谷山遠足を今年はみんなで元気に歩いて頂上まで登ることができました。秋の草花や昆虫ともたくさん遊びました。10月には、作品展で、子供たちの個性豊かな傑作を見ていただきました。11月には、全員で植えたサツマイモを収穫し、焼き芋をして味わうことができました。バス遠足で星のふるさと館に行き、新潟県で最大の天体望遠鏡を覗いてみたり、プラネタリウムを見て、夜空の星やお話を楽しんだりしました。12月には、子供たちの表現遊びの発表会を見ていただきました。園での活動や行事の度に、友達同士の関わりの深まりやそれぞれの成長の様子が見られます。子供たちにとって、充実した遊びや生活ができたのではと思っています。

遊びを共有し表現を楽しんだ発表会

12月13日(金)に発表会を行いました。遊戯や劇遊び、歌と合奏など盛りだくさんの発表会でした。どの子もととても楽しそうに嬉しそうに表現していました。

幼稚園の劇は、『演劇の子供版』ではありません。ごっこ遊びを土台とした遊びなのです。そこで、年長のまつ組の劇遊びを例に劇遊びの意義をお伝えします。

年長のまつ組の子供たちは、絵本の読み聞かせの中から「さるとかに」のお話で劇遊びをすることを話し合いました。そこには、さる、かに、はちなどの子供たちの大好きな生き物が登場人物だったり、園庭の柿の実をみんなでもぎ取ったりした経験が背景にあります。そして、絵本のイメージをみんなで



共有し、配役を話し合いました。大道具や小道具も先生や子供たちみんなで作りました。大きな段ボールを使って臼を作り頭が出てくるように工夫しました。その他、ちよっとずつ大きくなる柿の芽や舞台装置など、まつ組みんなで作り上げています。その他にも手作り感満載の小道具がいっぱいです。

劇遊びでは、決まった台詞はありません。お話の流れは子供たちの中に入っています。その時の様子で、子供たちは自分たちで好きなように言葉を発し、劇遊びが繰り広げられています。ですから、毎回違う台詞が飛び交います。本番当日も同様です。

また、劇遊びが進んでくると、他のクラスの子供たちや他の先生に見てもらいます。そうすると、第三者を意識するようになり、観客となった人たちの評価が気になってきます。見てもらった後にみんなで振り返ると、「次はこうしよう」という改善点も出てきます。子供たちは遊びを共有しながら、協働的に作り上げています。

劇遊びは、担任を含めた子供たち全員で主体的に活動が展開され、みんなで作り上げるからこそ、どの子も表現することを楽しむことができるのだと思います。幼稚園教育要領の「表現」領域には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と記載されています。まさに、劇遊びという遊びを通して、子供たちは総合的に資質・能力の育成を図っています。

年少のもも組、年中のうめ組の子供たちの発表も、子供たちの遊びの中から発展して表現活動をつくり上げています。この積み重ねが、子供たちの豊かな感性と表現力を培っているのです。



もも組 はらぺこあおむし



うめ組 ねこのおしやさん

本日、終業式を行い、無事に2学期を終了できました。

これもひとえに、保護者の皆様、ご家族の皆様のご理解、ご協力のお陰と心より感謝申し上げます。

明日から冬休みです。3学期に、また元気な子供たちと会えることを楽しみにしています。

よいお年をお迎えください。

